



## 教室に音色戻る 名古屋芸大

新型コロナウイルス感染拡大のため、オンラインでの授業が続いていた名古屋芸術大（愛知県北名古屋市）では、キャンパスの授業が一部で再開されている。芸術学部でも音楽領域の教室で合奏の授業が再開。飛沫による感染を防ぐため学生の間にはビニールシートを張った仕切りが設けられた。普段と異なる授業風景のなか、学生たちは息の合った音色を響かせていた＝写真・兵藤公治撮影。

合奏の授業は、密集を防ぐため、75人の学生を3グループに分けて交代で実施。クラリネットやフルートなどを学ぶ学生約

25人の授業が16日行われ、遠藤宏幸准教授(46)がシート越しに指揮した。

クラリネットが専門の4年、渡辺綾乃さん(21)は「シートがあつて隣の音が聞き取りにくい時もあるが、一人で練習しても自分の難点に気づかないし、一緒に演奏すると音の表現の勉強にもなる」と笑顔を見せた。遠藤准教授は「オンラインでは音を受信するまでタイムラグがあり、タイミングを合わせるのが難しい。細かい表現や臨場感などは生の演奏を聴くことでしか感じ取れない」と意義を語った。

【ガン・クリスティーナ】

合奏もシートで仕切り